

令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(岡部西小学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
岡部西小	上回った	下回った	上回った	上回った	上回った	上回った
埼玉県	51.9	56.9	56.7	62.6	53.4	50.9

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
岡部西小	<u>5-A</u>	6-B	<u>7-B</u>	<u>5-C</u>	<u>5-A</u>	<u>7-C</u>
埼玉県	5-B	6-B	7-C	4-A	5-B	6-B

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
岡部西小		2	-1		1	0
埼玉県		1	0		1	0

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		岡西小	埼玉県	岡西小	埼玉県	岡西小	埼玉県
深谷の子の誓い	・将来の夢や目標を持っている	95.2 ↑	91.2	90.9 ↑	82.5	88.1 ↑	80.5
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	92.9 ↑	79.2	90.9 ↑	77.6	81.0 ↑	72.4
	・自分からはっきり挨拶をすることができる	76.2 ↑	75.9	84.8 ↑	77.6	85.7 ↑	77.9
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができる	90.5 ↑	78.5	81.8 ↓	82.4	90.5 ↑	84.9
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉遣いができる	92.9 ↑	82.7	97.0 ↑	86.7	92.9 ↑	84.5
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	64.1 ↑	47.8	66.7 ↑	46.2	64.3 ↑	46.2
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	69.0 ↑	55.7	81.8 ↑	58.8	73.8 ↑	60.0
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	23.8 ↓	31.4	30.3 ↑	24.9	26.2 ↑	19.9
	・勉強は将来、役に立つ(勉強する理由として)	81.0 ↑	75.2	75.8 ↓	77.4	85.7 ↑	79.8
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	76.2 ↑	73.6	90.9 ↑	71.0	69.0 ↑	61.1
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	90.5 ↑	73.3	84.8 ↑	69.3	81.0 ↑	67.1
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	95.2 ↑	82.1	81.8 ↑	80.0	95.2 ↑	81.9
	・国語や算数の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた(2項目の平均として)	20.2 ↑	16.9	10.6 ↓	16.7	8.3 ↓	22.3
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	54.8 ↑	23.1	48.5 ↑	25.7	57.1 ↑	26.6
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	85.7 ↑	84.8	93.9 ↑	88.7	95.2 ↑	90.4
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	100.0 ↑	92.0	100.0 ↑	92.9	95.2 ↑	93.7
	・学級での生活は楽しい	100.0 ↑	94.8	93.9 ↑	92.5	90.5 ↓	91.6

【質問紙分析】

- ・ 深谷の子6つの誓いに関する内容では、21項目（7項目×3学年）中20項目で県平均を上回る結果であった。
- ・ 「勉強することが楽しい、好き」の項目に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は23.8～30.3%であった。「勉強は将来、役に立つ」では75.8～85.7%であった。勉強には楽しさよりも、進学や就職などの将来を見据えた有用性を感じている児童が多いといえる。

伸びが見られた学級・教科での取組

【学級】

- ・ 平均正答率が高かった学級の児童は「聞く」「考える」「書く」などの学習活動ひとつひとつに落ち着いて着実に取り組むことができた結果だと考えられる。
- ・ 平均正答率が高かった学級では、前年度の全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の考察を行った職員研修で挙げた課題への対策を、意識して授業に取り入れることができた結果だと考えられる。

【国語】

- ・ 伸びが見られた学年では、図書室利用の時間を確保し、読書を習慣化させることで様々な語彙に触れる機会や、年間を通して朝にスピーチを行い、継続的に自分の考えを自分の言葉で表現する機会を意図的につくった結果だと考えられる。
- ・ 課題が見られた学級では、正答率は県平均を上回ったものの、困難度レベルの高い問題においては16問中9問で県平均を下回った。語の意味や文法、慣用句などにおいても発展的な形の問題にふれさせ、多様な形に対応できる力を育んできたい。

【算数】

- ・ 伸びが見られた学年では、習熟度別少人数指導を行い、年間を通して指導者を習熟度ごとに固定して児童の理解度に合わせた指導を続けた結果だと考えられる。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・ 国語、算数で授業展開の型（岡西スタンダード）の作成と、ノートを使い方を校内で統一することにより、教員の経験年数による指導力の差を小さくするとともに、児童も学び方がわかり、見通しをもって学習に取り組めるようにしている。
- ・ 国語では、業前活動で文法、慣用句、熟語などの基礎的な問題や条件作文、コラム学習などの文章で表現する問題などに取り組むことで、個々の基本的な学力の着実な定着を図っている。
- ・ 算数では、1年生で計算カード（加減）、2年生で九九、3年生で百ます計算（加減乗）に目標タイムを設定し、タイムをクリアできるよう継続的にそれぞれの取り組みを行い、個々の確実な計算力の向上を図っている。
- ・ 算数では、1、2年生で補助員が入り、3年生から5年生で少人数指導を行うことで、教職員1人が見る児童数を少なくし、学習内容の個々の理解度を把握しく、必要な指導をしやすい環境を整え、児童一人一人の確実な学力の定着を図っている。